

広域通信制 株式会社立 やまと高等学校

令和6年度（2024年度） 学校評価表

1 学校教育目標
<p>これまで蓄積されてきた実践的知見と先進的な情報通信技術とを融合させた新しいスタイルの教育を展開することで、健全な個性を伸長し、確かな学力を育む。日本人が大切に守り受け継いできた精神を学習の根底に据え、体験的な学習や特別活動を通して豊かな人間性を涵養するとともに、健康の増進と体力向上を図る。協働的で探究的な学習に取り組むことで、他者と協力して困難な課題を解決し、社会に寄与貢献しようとする、志高い人材を育成する。</p>

2 学校教育重点項目
<p>(1) 健全な個性を伸長し確かな学力をはぐくむ</p> <p>多様なメディアを使い生徒の個性にあった教材を準備し課題提出や面接指導を通してすべての生徒に学習の機会を確保していく</p> <p>(2) 健康の増進と体力向上を図る</p> <p>主に、面接指導・特別活動・学校行事を通して自身の健康体力に課題意識を持ちながら体力向上や健康増進に取り組む姿勢を養う。</p> <p>(3) 他者と協力して困難な課題を解決し、社会に寄与貢献しようとする志高い人材の育成</p> <p>主に、特別活動、特に学校行事を通して地域社会とのつながりや、SDGsに係る諸問題に取り組みながら、様々な課題意識を持ちながら活動していく。</p>

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校教育目標の理解と実践	通信教育実施計画に生徒が学習の機会を確保できる工夫がなされているか	多様なメディアを使い生徒の個性に合わせた授業形態を確保している	VODや授業動画を的確に提供する	A	添削課題や教科指導についてほとんどの回答で高評価を得ている。システムの改善点は余地を残している。
				添削課題の分量や内容について検討している		
		特別活動の提供	教育目標に実現に向けた特別活動を設定し適切な時期に生徒へ提供している	本校で行われる各種行事の教育目的の明確化	A	特別活動については3者共に高い評価をしている。様々な場面で参加しやすいように設定しているため、高い評価が得られたものと考えられる。
	郊外活動で行われる各種行事の教育目的の明確化					
	多様なメディアによって実施される特別活動での教育目的の明確化					
	学校教育重点項目の理解と実践	生徒の個性に応じた教材の選定や課題の設定	履修した単位を全生徒が履修できる	課題の提出状況を的確に把握している	C	提出状況の実態把握という観点からは、保護者生徒より職員が厳しくとらえている。通信制の特徴でもあるが大きな課題ともいえる。
スクーリングや特別活動への参加状況を把握している						
健康の増進と体力向上		スクーリングや特別活動の適切な活動を行う	多くの生徒が参加できるように企画や機会を提供している	A	スクーリングや特別活動の内容や機会確保においては高い評価を得られた。	

		他者と協力して困難な課題を解決し、社会に寄与貢献しようとする志高い人材の育成	教育活動の中で協同的な学びや、社会的な学びを行う 特別活動は、社会や今日的課題を扱う	多様なメディアを使ながらも、主体的な学習態度を育成している 自然環境や社会問題に触れさせるような特別活動の実施	B	インターンシップやアルバイトといった社会との連携に係る活動は通信制課程の特徴ともいえる。個別案件で勤め社会的な活動を後押ししている。
	広報・生徒募集活動の推進	広域通信制についての周知 広報活動・生徒募集	SNS・HPによる広報活動 生徒募集に関する、直接的募集活動	HPの更新によるリアルタイムな情報発信 SNSを使った情報発信 学校訪問による広報活動 個別相談会による広報活動 合同説明会による広報活動	C	生徒募集に直接的にかかわる活動ではあるものの、システムの変更や機器操作に係る人材の不足で不十分であった面が多々ある。特に生徒の活動実態が保護者にもわかるような工夫が必要と考えられる。
学力向上	生徒の自己管理能力の向上	日常の学習活動の把握	単位認定に係る各種活動の把握と積極的参加	期限内添削課題提出への取組 面接指導の効果的活用 特別活動への積極的参加の勧誘	C	システム変更により生徒に向けた通知がうまく機能していない部分があり、期限内の課題提出の連絡が不十分な部分があった。
	能動的学習態度の育成	多様な学習方法を駆使しての授業改善	多様な学習メディアを能動的学習態度の育成に視点を置いて活用している	VODや授業動画について能動的学習態度の育成に工夫をしている メディアを通しての授業の中で生徒参加型の授業を構成している	B	面接指導や添削課題の指導においては、生徒の活動に主点を置き期限内の課題提出に向けた指導が行われた。生徒の主体的な活動にもっと注力したい。
キャリア教育	進路意識の向上	早期の進路希望の決定	様々な学習活動の中での進路指導 進路学習を含めた特別活動	教科横断的な進路指導 進路希望を考慮した特別活動の企画	A	様々な場面で個別対応が求められている。個々の背景や環境に応じた進路指導の必要性がある。生徒自身の主体的な活動にも助けられている部分もあるが、教師の個別の働きかけが進路開拓に向けて効果を得ている。
	生徒の進路希望に沿った進路指導	生徒の進路希望に大切にしたい進路実現	生徒の個別事情に応じた進路相談 進路実現に向けた具体的な取り組み	生徒の生活背景を把握した進路相談 進路希望に連動した学習指導 就業体験や体験授業等の積極的活用		
生徒指導	生徒の主体性の育成	カリキュラムマネジメントを意識した主体性の育成	授業改善の中で取り組み 学校行事の中での取り組み	生徒の活動を意識した授業運営をしている 生徒主体の行事運営になっている	B	様々な課題を抱えている生徒の課題に応じた個別の対応が求められている。公共性や社会性を身に付ける事で社会生活に適應できる力を養っている。
	規範意識の向上	社会的な活動を通して規範意識の向上	教育活動の中で規範意識の涵養をする	教育活動全般に規範意識を意識した指導をしている		

いじめ対策	いじめ等の問題行動の未然防止等	担任・生徒指導部を中心とした組織的対応の徹底	丁寧な個人面談の実施	生徒の個性を十分に理解し組織的に対応している	A	風通しのいい集団作りをすることで情報をすぐにキャッチしその場の対応を行っている。SCや養護教諭の助力も大きい。
人権教育・生徒支援	互いを尊重する人権教育の推進	他者の考えを理解し共感する能力の育成	特別活動等での活動の中で互いに認め合う態度の醸成	体験発表等を通して、自己の体験を踏まえ、自己の成長につなげる指導の工夫	B	在校生には、健康相談における養護教諭の対応や、SCによる相談業務のおかげで個別の事案に迅速に対応できる環境が整いつつある。生徒のみならず保護者対応においても経験豊富な教師陣が対応できている。新入生に関する情報交換も生徒支援の観点から活動が出来ている。
	生徒理解の充実	専門的知識や経験を持つ専門的知見の活用	教育相談や養護教諭面談を通して心身両面に生徒の理解を促進する	SCや養護教諭の活動を積極的に活用し支援的立場に立った指導をしている	A	
	特別支援教育の推進	生徒の状況を把握できる組織的体制づくり	個別面談の実施	生徒の背景も含めた生徒理解に努め特別支援教育を推進している	A	
地域連携との役割	地域特区設校としての役割	教育特区の設立において適切な地域連携活動を行っている	教育特区に定めがある教育活動を適切に行った上で地域との連携活動を行っている	特別活動の中で地域と特色を取り入れた教育活動を行っている	B	教育特区にある学校として山都町との連携活動を意識して行っている。もっと活動の範囲を広げていきたい。

4 学校関係者評価

(1) 評価全体回答数は、昨年度N＝3406個に対し本年度は生徒数の増加に伴いN＝4309になった。質問方法は、4段階の選択方式で、マイクロソフトフォームによるウェブ回答とした。評価対象者総数は教師22、保護者181・生徒161で総数の対象で168人からの回答を得た。回答率は、46％であった。昨年度の回答率を9％程下回り回答率の上昇に工夫が必要と感じる。質問数は、教師、生徒、保護者へ共に26項目であった。すべての項目を総合して昨年度の評価から2％下がり43％が最高の評価を得ている。2番目の評価と加算すると昨年度を大きく上回り24％アップの84％が肯定的評価を与えてくれた。昨年度目標との考察では、最高評価の50％超えは達成できなかったが、2番目の評価を加算して70％超えに対しては大きく目標を超える84％を達成できたことは、日頃の教育活動に対して肯定的に捉えられた証左ではないか。次年度は、最高評価の47％超えを達成したいものである。

(2) 教師評価では、学校経営の関連分野のアンケート結果において、他の領域の評価より低い評価となっている。主な要因は教師自身の自己分析の厳しさである。研修や教員の自己研鑽の場を整える必要性を感じる。学力向上や教育活動全般の評価は高く生徒や保護者に対して丁寧な指導に心がけて行っている様子が窺える。

(3) 生徒評価からは、学校行事の運営やそのほかの活動に高い評価を得ている。学校経営に自信が持てる結果となった。学力向上の分野の評価では、学習に対して意欲が十分に持ていない生徒が一定数存在している結果を示している。学習の工夫が必要と感じる。進路指導や人権教育等の領域に関する学習活動に関しては高い評価を得ている。また、この学校に入って良かったと回答した生徒が90％の値を示したことは良い材料である。

(4) 保護者評価では、学校満足度や学力向上で肯定的評価が80％を得られたことは喜ばしいことである。一方、完全否定の評価があったことについては、我々の認識も見直していく必要性を感じる場所である。また、学校活動全般に保護者に対するPRが不足している実態があることも認識できた。保護者会活動もなく実際学校がどんな活動を行っているか目にする機会は限られている。改善点を感じる結果であった。

5 総合評価

- (1) 生徒数は増加傾向にあるが、目標達成することで安定経営をお願いしたい。
- (2) 進路指導に成果が出ているようである。個別最適化の教育の中でも成果として捉えられる大きな部分ではないか。
- (3) 小学校・中学校で何らかの理由でトラブルを抱え登校できなくなった生徒へのセーフティーネットとしての学校の役割を認識してもらい学校経営に生かしてほしい。また、働きながらや自分の特技を生かしながら在学している生徒もいる。そんな人たちの友人関係作りの場でもある。この時期の友人関係は貴重な物であるので大切にしたい。
- (4) 学校も4年目を迎えようとしていることから、今後卒業生と在校生との交流活動も取り入れながら教育活動を推進して欲しい。
- (5) 教育は人づくりというが、人間関係創りという側面が大きい。人間関係をしっかり作ることによって社会性や公共性を育成することができていくと思う。
- (6) 通信制の課程では自分で学習を進めていくことが求められるが、なかなか難しい部分がある。これらのことは保護者にも十分に理解してもらう必要がある。

5 次年度への課題・改善方策

- (1) 昨年度評価項目全体平均で最高評価4を付けた割合が50%を超えることを目標としたが、本年度の結果は43%であった。目標数値には届かなかった。しかも昨年度評価から2%ほど減少した結果ともなった。次年度の目標を昨年度超えの47%とする。完全肯定の項目平均なので決して低い目標ではないが、達成できるように努力を重ねていきたい。特に教師による評価と生徒による評価は上昇傾向にあるのでさらに伸ばしていきたい。
- (2) 改善点の一つ目は、教育活動が保護者に伝わりにくいという通信制課程の弱点ともいえる部分である。日常的に学校生活を送っていない生徒諸君の活動を保護者に知らせていくには、公式ラインの活用が有効である。公式ラインの中に生徒会活動や学校行事の写真や動画をアドレスをプッシュ型でお知らせすることで改善していく。
- (3) 添削課題や提出物に係る情報伝達の工夫である。課題提出期限の共通化については、本年度取組みがそれなりの成果を得ることが出来た。しかしながら、そこには徹底できない部分が多く担任や教科担当者は生徒や保護者への情報交換に多大な時間を消費することとなった。ICTシステムへの慣れによるものも大きく影響したが、生徒たちの捉え方の違いによるものも大きかった。規範意識や公共性・社会性を養う良い機会でもあるので、教師・生徒・保護者の意識を共通理解する機会としたい。